

前回協議会での主なご意見と対応案

ロードマップ、数値目標、その他についてご意見を拝聴。熊本地域公共交通計画（素案）に以下の「対応案」のとおり反映。

前回協議会での主な意見

対応案

ロードマップ

- ① 関係者が協議する場を設け、実務レベルで具体的にいつ、どこで、どういう形でやるか示すロードマップが必要。
- ② 公共交通機関の連携も含め、今後、乗り換え拠点はどうしていくのか。交通事業者も協力するが、行政主導でロードマップを示して欲しい。

- ① 来年度の公共交通協議会の中で、各事業の具体的なスケジュールや役割分担について協議し、示していきたい。
- ② 同上

数値目標

- ③ 数値目標 3 は、もう少し下げた方がいいのでは。
- ④ 数値目標 3 は、アンケートの結果であり変動がある。毎年バラツキ等を踏まえて、目標値を設定した方がいいのでは。

※数値目標 3

毎年度実施する市民アンケート調査の結果。公共交通機関を週に1回以上利用、または月に1回以上利用と回答した人の割合

- ③ 数値目標については、新しい取組を積極的に展開し、公共交通の利用促進・利便性向上を図り、達成を目指していきたい。
- ④ 調査結果をみると有効回答率等にバラつきがあった。目標値については、少なくとも市民の2人に1人が移動時に公共交通を利用することを目指していきたい。

その他

- ⑤ 道路事業と公共交通事業をバラバラで議論するのではなく、セットで議論することにより事業の関連性が把握できる。
- ⑥ アフターコロナを見据えた新しい生活様式への対策等が必要。公共交通を利用してもらうためにはインパクトが重要。

- ⑤ 道路整備の計画と連携を図りながら、公共交通事業を推進する。連携の内容については、適宜、協議会の中で報告する。
- ⑥ 次年度以降は、バス事業の共同経営による運行開始や MaaSによる全体でのモビリティサービス展開の検討など新たな取り組みを推進する。